静岡県中小企業家同友会

同友しずおか

2017 7
VOL.464
題字：遠藤 在氏　榛原支部

特集 第20回 女性経営者全国交流会 in富山
挑戦！しなやかに煌めく笑顔で未来へつなごう

会員訪問記
勝亦　政和氏　㈲静西開発　神場ゴルフセンター・御殿場支部
秋山　実氏　㈲豆豊商店・静岡支部

その他主な内容
中同協・障害者問題委員会in静岡、第31回全県経営フォーラムin伊東　記念講演講師　稲本雅子氏訪問、第14期経営指針を創る会一泊研修、支部だより、青年部通信、新入会員・名義変更紹介、経営者&学生 交流会

平成29年度 重点課題
①経営指針の成文化率を高め、人を生かす経営を実践する同友会型企業を増やします。
②中小企業振興基本条例運動を推進し、政策実現が行える組織づくり、地域づくりをめざします。
③早期に1200名会員を達成し、地域の活力を生み出す活動を推進します。

発行所：静岡県中小企業家同友会　doyu@szdoyu.gr.jp　/　編集者：県広報情報化委員会
〒420-0857 静岡市葵区御幸町8 静岡三菱ビル6階　TEL：054-253-6130（代表）　FAX：054-255-7620　http://www.szdoyu.gr.jp

第20回 女性経営者全国交流会 in富山

挑戦！しなやかに煌めく笑顔で未来へつなごう

～静岡同友会より14名参加！ 21世紀の社会・企業の在り方学び合う～

記念講演講師　坂東眞理子氏

６月15～16日、第20回女性経営者全国交流会in富山（以下、女全交）が富山第一ホテル（富山県富山市）他にて開催され、43同友会・中同協から694名が集いました。

１日目は７つの分科会に分かれて学び合いました。第１分科会では、梶川久美子氏（サツマ電機㈱・沼津支部）が「企業づくり」をテーマに報告しました。

２日目の全体会では冒頭、近江清氏（富山同友会代表理事）、鋤柄修氏（中同協会長）より挨拶。その後石井隆一氏（富山県知事）から祝辞を頂き、武川恵子氏（男女共同参画局長）の祝電が披露されました。記念講演では、坂東眞理子氏（昭和女子大学総長）が「女性活躍4.0時代～いい子からリーダーへ～」と題し、女性自身が働き方への自覚を変えることが必要と述べた上で、リーダーには、社員が自分を越えて成長することを応援する姿勢が大切であると触れました。

第１分科会

ファミリービジネスへの挑戦

～ 良い会社づくりは良い土壌づくり ～

報告者：梶川 久美子氏
（サツマ電機㈱・静岡同友会 沼津支部）

第1分科会で報告する梶川久美子氏

報告者の梶川久美子氏は、2013年に同友会へ入会、2016年12月に代表取締役に就任しました。まだ入社する前、大学で人材カウンセラーを務めていた時に発生した東日本大震災。ボランティア参加で出会った被災者に「自分の身近な人を大事にして下さい」と言われ、素直に考えました。両親や弟、自分が子どもの頃から働いていた従業員さん達を大切にするため、１年以上悩んで実家を継ぐ決意をします。入社後、部署ごとの社員にカベがある事に気づき、社員と個人面談を行い、そのカベを取り払うために研修を行いました。現在は徐々に改善し、部門間の連携も増えています。前社長の理念を発展させ、技術者がアフターサービスに出られる体制も作っている最中です。10年間は良い会社づくりを行い、その後10年は後継者づくりに取り組む予定です！との報告でした。

２日目の全体会では河合浩史座長が分科会まとめを報告。記念講演は昭和女子大学総長 坂東眞理子氏が「今後の生産者人口減少社会は女性活躍時代が来る」と語りました。

良い土壌をつくるためには、よく観察し、計画的に良い肥料を与え、地道に耕し土壌改良する必要がある。その努力によって花が咲き、果実が収穫可能になるかも？他会員との会話から多くの気づきがあり、さらなる実践を決意した全国大会参加となりました。

河田 憲一郎 氏（㈲うしぶせ自動車・沼津支部）

第５分科会

誰もが実現できるエネルギーシフトとは

報告者：平野 佳則氏
（㈱平金商店・岩手同友会）

最初は「エネルギーシフト」という言葉について、非常に難しく、抽象的なイメージを持っており、漠然と「化石燃料から再生可能エネルギーへの変化」のことであると考えていました。今回の分科会に参加して学んだことは、エネルギーシフトの本質は「生き方の大転換」であるということです。報告者の平野佳則氏は震災後、欧州視察にて地域でのエネルギーシフトへの取組みが経済的自立地域を増やし、地域に仕事を増やしているという現実に衝撃を受け、自社でも取組みを始めたそうです。現在の経済活動にて発生するエネルギーを徹底的に見直し、省エネや熱の有効利用を大きな柱として地域に仕事とお金の循環をもたらすことは、同友会的にも地域の雇用を創出するという目的と合致しています。一方、精神論から入り易いテーマですが、事業としての投資効率の視点も非常に大事であるということを議論の中で感じました。

また、都会のエネルギーシフト、田舎のエネルギーシフトなど、その地域にあったエネルギーシフトの“かたち”があることも気づかされました。

羽野 佳明氏（丸は羽野水産㈱・沼津支部）

中同協・障害者問題委員会

障害者問題の取り組みの輪を広げる

報告をする景山 昌治氏

6月20日（火）　静岡駅前会議室

梅雨なのに好天のなか、中同協・障害者問題委員会が静岡市で開催され、全国から42名の先進的企業経営者と静岡から14名が参加して事例研究と意見交流を行いました。冒頭は、岐阜同友会代表理事の景山昌治氏（㈱東海化成）による障害者雇用の報告。現場との意識格差を感じながら、雇用環境が厳しくなる中で新戦力として障害者雇用に社員とベクトルをそろえていく難しさや、経営者の決意を語ってくれました。配布された滋賀同友会ユニバーサルニュースの「毎週1.3万人の労働者人口が減少している」という文字が意識に重なります。将来の社員不足に備えていく、多くの事例を踏まえた報告でした。バズセッションも、地元に戻れば県委員長という方ばかりで、たいへん内容の濃い時間でした。「同友会としてめざす障害者雇用」「支部会員に裾野を拡げるには」などの言葉からは、全国でもなかなか理解が進まない現状が垣間見られます。しかし、だからこそチャンスがあると感じました。

後半は委員会となり、正副委員長交代が報告されました。なんと新副委員長に静岡県代表理事の河合浩史氏が、満場の拍手で委員会推薦を受けました。７月に愛知で開催される全国総会で、正式に決定の運びとなります。河合代表理事、静岡から全国へ情報発信を期待しています。

金澤 仁氏（㈱金沢紙工・静岡支部）

中小企業憲章・条例推進月間キックオフ会議

中小企業憲章の国会決議を求める

6月6日（火）　衆議院第一議員会館大会議室

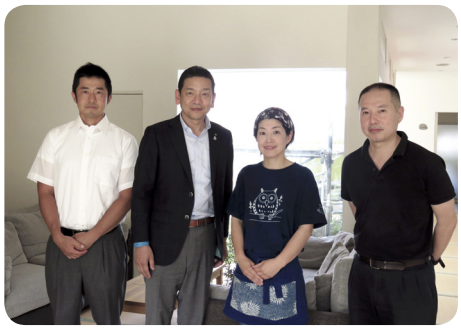
中小企業家同友会全国協議会（以下、中同協）は６月６日、衆議院第一議員会館大会議室で「2017中小企業憲章・条例推進月間キックオフ会議」を開催し、38同友会・中同協から179名が参加。静岡からは４名が参加。41名の国会議員、22名の秘書（代理）にご参加頂き、静岡からは勝俣孝明氏（衆・自民）、細野豪志氏（衆・民進）、榛葉賀津也氏（参・民進）、平山佐知子氏（参・民進）、塩谷立氏（衆・自民）の秘書にお越し頂きました。

第一部では鋤柄修中同協会長の挨拶の後、高島竜祐氏（中小企業庁経営支援部長）に「中小企業憲章の理念に基づく中小企業政策の具体化」をテーマに、憲章の趣旨から、中小企業政策についてご説明いただきました。また中小企業４団体より、取り組みや課題などを報告。各団体が共通して憲章・条例運動への賛同を示しました。その後、五十畑昌之氏（福島同友会・政策提言委員長）より中小企業振興基本条例制定とその後の運用についての実践報告がありました。

第二部では衆参両院41名の国会議員から中小企業憲章の国会決議についてなどを軸に熱い発言がありました。最後に広浜泰久中同協幹事長より「同友会に対する認識に変化が起きている。憲章の理念にふさわしい中小企業を目指しましょう」とのまとめがありました。

第31回全県経営フォーラム in 伊東
記念講演の講師を訪問

本フォーラムは11月14日（火）伊東市を会場に「地域社会の主役として光輝く中小企業づくりを～人を生かす経営の実践で、地域の期待に高い水準で応えよう～」をメインテーマに開催されます。記念講演は河津桜で有名な自然豊かな河津町で温泉宿坊「禅の湯」を運営する稲本雅子氏（㈱ハリスの湯・代表取締役）をお招きします。6月下旬、フォーラム担当の高木副代表理事（バリュー・トーカイ㈱）、守谷伊東支部長（㈱祇園）、杉山実行委員長（大平造船工業㈱）の３名が講師の稲本氏のもとを訪れ、禅の湯のコンセプト「育（いく）する宿」の経営実践に触れました。会員の皆様、全県経営フォーラムをぜひご予定ください。


稲本 雅子氏（右から２番目）

◆モダン宿坊　禅の湯

伊豆縦貫道から天城峠、河津七滝を越えしばらく進むと、曹洞宗・慈眼院の境内でモダンな宿坊を構える「禅の湯」があります。アメリカ初代駐日総領事のタウンゼント・ハリス氏が宿泊したことに由来し、㈱ハリスの湯と名付けられ、「禅の湯」を運営しています。

「禅の湯」外観

◆コンセプトは「育（いく）する宿」

訪問の様子

最大の特徴は「育（いく）する」こと。スタッフの雇用形態から働き方、そしてお客様の宿泊プランに至るまでたくさんの「育（いく）する」場が溢れていることです。15名のスタッフと一丸となって、一人ひとりの生き方やライフスタイルを大切にした働き方を実現することに稲本氏は全力を投じられています。法人化から10年、今では30～50代の県外出身者が伊豆の地に移住し、禅の湯でイキイキと働く姿を目の当たりにしました。定着率も圧倒的で、人生を楽しみながら長く働ける環境を作り出すことに成功しています。また、旅館業のみならず軒並み労働力不足が叫ばれる昨今において、お客様への宿泊プランにも特徴が見られます。

◆キーワードは「人」　人への投資を最重要視

お客様が禅の湯スタッフの体験をしながら宿泊するプランも人気を博しています。都会のお客様が、仕事体験を通して地方の生活をリアルに感じられることが特徴です。河津の魅力、伊豆の魅力を一人でも多くの方に伝えながら、移住者が一人でも増えればと願う稲本氏。スタッフの口コミやSNSなどで稲本氏の経営姿勢に共感する就職希望者が後を絶たないとのことです。建物や内装などハード面への華美な投資に偏るのではなく、スタッフへの投資に注力されています。スタッフには起業家精神も養ってほしいと、スタッフの商品開発や販売を応援する土壌づくりにも積極的です。これらの取り組みが評価され、夢を形にできるビジネスプランとして三島信用金庫夢企業大賞サービス革新部門最優秀賞を受賞されました。

◆全県経営フォーラム in 伊東にぜひお越しください

目標は、健全に長く続くよい会社。経営者は何の為に経営するのか、社員は何の為に働くのか。「よりよく生きるための経営とは？」稲本氏の経営実践にどうぞご期待ください。

第１４期経営指針を創る会第１講

６月17日（土）～ 18日（日）　静岡ホテル時之栖　参加30名

新しい創る会の始まり

14期経営指針を創る会（以下「創る会」）は、いきなり一泊研修から始まりました。

創る会の本質は、受講生、スタッフの問いかけ、意見の交換、討論の中から参加者が今まで気づくことのなかった自社の強み、役割、あるいは経営者の役割、覚悟を学ぶことにあります。本音で、魂がぶつかり合うような議論をするためには、お互いの信頼関係が必要です。そのためには受講生・スタッフ同士がお互いをよく知り、お互いの鎧を脱いで本音で語れるような環境が必要です。そのためにも、一泊で交流をしました。また、この一泊研修のもう一つの目的は、二日にわたり同友会の本質にたっぷりと浸ってもらうことでした。県代表理事の井上斉氏（ワシロック工業㈱）を含む３名から、人を生かす経営の実践と成果の報告、そして13期修了生の「労使見解」の報告から「人が生きる経営」の原点を学びました。

創る会は、セミナーではありません。参加者全員の本音の議論の中から学びを得る場です。脛がぶつかり合い、血が出ることがあるかもしれません。しかしそれこそが同友会の創る会です。新しい歴史をつくりましょう。

望月 宣典氏（清水クレジット㈱・経営労働委員長）

経営指針を創る会 第14期 見直しプロジェクトリーダーとして

スタッフと受講生双方が共に本気になって「経営の羅針盤」経営指針の成文化と実践について学び合う場。このことを強烈に体感した第13期創る会の初日、いずれはスタッフの側に立って会の運営に携わりたいと強く感じました。その後、準備段階から参加できる取り組みが次期への「見直しプロジェクト」だと知り、13期終了直後から課題シートの見直しを含むカリキュラム全体の再考メンバーに加わりました。

第14期では、深く動かされた気持ちと大きな熱意を持って明日の経営に臨めるよう、全講を土日に限定して終日集中できる日程を組みました。さらに初日から一泊研修を断行するなど、新たな試みを随所に盛り込み、結果として総勢21名という実に多くの受講生を迎えての開催に至りました。

初日からの一泊研修が功を奏し、支部の垣根を越えた交流が次々と生まれています。困難に直面した際に励まし合える新たな仲間を得られたことは、受講生にとって今期早々の大きな収穫だったのでは、と感じています。

遠藤 健正氏（㈲大橋商事・中遠支部）

新たなスタート始まる　　1泊研修の感想　今後の決意目標

経営者の責任、労使見解、人を生かす経営と題し、創る会第１講がついに始まりました。

受講して、経営指針を成文化するのがゴールになっていた誤りに早速気付かされました。そもそも私は何のために仕事をし、経営者の責任を果たすのか、覚悟はあるのか。

今まで避けてきたやるべき課題を共に考え学び合うこと。先輩スタッフの実践報告。受講生、スタッフとの新たな関係、環境にとても刺激を受け、研修後も興奮して寝付けない自分がいました。貪欲に人に関心を持ち、今後、同志となる仲間をつくり共に具体的実践を行うようにしていきます。

中村 功尚氏（NK設備㈱・榛原支部）

第14期創る会１泊研修を終えて

建築業の２代目として会社を存続、できれば拡大したいという想いで参加を決意しました。今までは２代目として全く先が見えなかったのが、１泊研修でのスタッフの報告やグループ討論を通じ、針の穴ほどの光明が見えるようになりました。反面、自身・自社の課題は膨大にふくらみ、自分で大丈夫なのか？と強く感じたのですが、気付けたのはこの場やスタッフ、同期がいたからだとも思います。自分がこれからすべきことを明確にし、仲間に全てをぶつけひとつひとつクリアしていき、同期とこの大きな山を登りきりたいと思います。そして、経営基盤を創り経営者としてスタートラインに立つ日を念頭に置き、半年間全力でやりぬき自分に自信をつけたいです。

藤井 陽介氏（㈲藤井建築・中遠支部）

支部だより

富士・富士宮合同例会

ファミリービジネスへの挑戦 ～良い会社づくりは、良い土壌づくり～

6月8日(木)　樟泉閣　参加70名

梶川久美子氏（サツマ電機㈱・沼津支部）は東日本大震災の際に参加したボランティア活動で、被災者の方に「自分の身近な人を大切に」と言葉をかけられます。「今自分があるのは両親と社員さんのおかげ」と思った梶川氏は、サツマ電機㈱入社を決意。会社では、社員が互いに助け合う姿を見て、この土壌（社内環境）を作ってきた父に感謝しつつ「もっと良い会社にしたい」と思います。同友会では仲間から「焦るな」と助言を受け、社員とペースを合わせ、信頼関係を築いた上で変化を求めていきました。その中で、自分の役割はトップセールスだと考え、海外への拡販にも注力。同友会で学び、経営指針を作成し、現在は浸透させるべく努力中です。良い会社への変わり方は「ゆっくり自然に、でも確実に」とのこと。ファミリー企業の経営者は、社員一人ひとりに「自分の会社」と思ってもらい、いきいきと働く雰囲気（土壌）を作ることが最大の仕事だと結論づけました。「精神的にも幸せで豊かだからこそ成長できる」と言う梶川氏の瞳は、もっと先を見ているようでした。

遠藤 正人氏（㈱富士トレーディング・富士支部）

梶川氏の報告を聞いて、家業を継ぐ三代目の女性社長という点が私自身と重なりました。会社を良い状態で継承させてくれた先代への感謝や尊敬、社員との信頼関係の重要性を説き社員の視点に立ってあらゆる問題点を冷静に分析する姿勢から、決して力だけではないしなやかなリーダーシップを感じました。梶川氏は、社員がいきいきと働く会社の実現には教育が必要であると話しています。「人は育てるのもではなく、勝手に育つものだから、いかに良い土壌を作るかが大事。」社員の可能性を信じる梶川氏の人間性が分かる言葉です。社員教育に難航する理由を社員の責任にしてしまいがちですが、実は会社の土壌（環境や体質）が原因なのかもしれない、どんなに豊かな土壌でも耕し続けなければ実りは得られません。常に現状を的確に把握し、より高みを目指して改善し続けることが必要です。私も梶川氏の背中を追い、自分の役割とは何か模索し良い経営者を目指します。

渡邉 美穂氏（㈱旭紙工所・富士宮）

浜松・中遠合同例会

「自社の存在意義と強みを未来に繋げて!!」＆「同友会と私」

6月20日(火)　アクト研修交流センター　参加27名

浜松支部から山本秀樹氏（㈲山本加工所）、中遠支部から遠藤健正氏（㈲大橋商事）が報告しました。山本氏は自社経営と同友会での歩みについて「同友会に入って他の経営者と関わり意識が変わった。他に真似できないものに特化することが会社の存在意義・会社の生き残りに繋がると気付いた。また地域に必要とされる会社になることは地域貢献にも繋がる」と報告。バズセッションでは「特化する事の大切さに気付いた」「儲けるだけでなく役に立ってこその仕事だ」等の意見が挙がりました。遠藤氏は、同友会での学びと自己変革の経験から「例会だけでなく、色々な行事に参加し普段関われないような経営者と関わることで人脈も広がり自分の意識改革となった。それらの話の中で、地元の企業と繋がることで地域の活性化となることに気付き、『地元に仕事を落とす』ことを使命感に日々努力している」と報告。バズセッションでは「熱い話を聞き自分達も燃えてきた」「地元への貢献も大事だ」等、こちらも多くの意見が挙がり、時間が足りなくなる程白熱した例会となりました。

真砂 隆氏（フロムネイチャー・浜松支部）

山本 秀樹氏

遠藤 健正氏

最初はベテラン会員の山本秀樹氏（㈲山本化工所・浜松支部）でテーマは「自社の存在意義と強みを未来に繋げる！！」でした。氏はグローバル化による空洞化の進展で遠州地方が製造業消滅の危機に直面していると警告。かつての城下町のような多様な業種のある街づくりが必要であり、また誰かに喜ばれるやりがいある仕事を見いだし、後継者を育てていくことが重要と指摘しました。

次に遠藤健正氏（㈲大橋商事・中遠支部）による「同友会と私」。入会以来出会ってきた「人」を中心に報告が展開されました。遠藤氏の熱のこもった報告には初めて聞く浜松支部の会員の皆さんも感銘を受けた様子。鋤柄修中同協会長の「同友会は経営者の生きざまを学ぶところ」、広浜泰久同幹事長の「各社員が持つ一番素晴らしいものが一番いい形で表れているかを問え」といった言葉が印象に残りました。

同友会については山本氏も「他の会員の話が聞けて愚痴をこぼすことができ、それが実になった。役員を引き受けて県などの行事に出るのもためになる」と述べ、同友会活用を呼び掛けていました。

鈴木 弘之氏（税理士法人 あい会計・中遠支部）

伊東例会

我が経営を語る

6月21日（水）　伊東市健康福祉センター　参加18名

伊東副支部長の野村勝也氏（㈱野村商店）の報告でした。報告内容は、生い立ちから始まり、今の野村氏の人柄・カリスマ性の原点となる大学時代のアメリカンフットボール部キャプテン経験談。そして家業に帰ってきてから感じた中小企業のカルチャーショック、そんな中で経験したＪＣ理事長。さらには生涯の友との出会いについて。色々な経験をへて社長になってからの会社のお客様目線・仕入先様の目線、社員・現場の視点を考え、会社全体が透明性の高い組織を目指して取り組んでいるとの報告がありました。

バズセッションテーマは「伝える」と「伝わる」の違い、ギャップについてでした。当日は、10名近いオブザーバーの参加もあり活気ある議論がされていました。参加されたオブザーバーの中には「伝えているだけで伝わっている気になっていた」「普段そこまで伝えていることを考えたことがなかった」「今後受ける側のことをよく考え経営者としての伝達の仕方を考えてみる」などと気づきを得た方もおり、良い例会となりました。

土屋 順史氏（㈲土屋装飾・伊東支部）

御殿場例会

100年めざして社員と共に地域で生きる

6月14日（水）　エピ・スクエア　参加65名

御殿場支部、前支部長（８代目支部長）菅沼良将氏（玉穂木材工業㈱）による報告が行われました。社長就任から10年、様々な経営課題に直面する中で、菅沼氏の挑戦がスタートしました。現在の業界の動向に関する説明が行われ、その流れに逆らわぬよう課題解決につなげた経緯をエピソードを交えながら紹介。まずは、労働環境の整備、財務体質の改善、お客様へのサービスの向上と様々な課題に向き合ったそうです。その時に解決のヒントは常に同友会での学びと実践にあることが分かる報告でした。

経営の基盤が少しずつ安定することによって、社内の雰囲気も良くなり地域との関わりも深みも増し、次への成長のきっかけになっているそうです。会社経営と同友会との関わり方は重要であり、同友会への参加が経営の悩みを早期解消する有効な時間だということを学びました。

片野 貴一郎氏（㈱モスク・クリエイション・御殿場支部）

三島例会

「経営指針を創る会」参加で見えた希望の光

6月26日（月）　三島商工会議所　参加27名

今回は、３年前にも報告者を務めた古川一郎氏（㈱一電工）が、経営指針を創る会での学びを経て、再度報告しました。会社の創業からその後の歩み、社員との軋轢。そんな中参加した2015年度の全県フォーラムでの話、三島支部会員の後押しがきっかけとなり参加した「創る会」での学びから、社員と一緒に作り上げる会社の未来が描けるようなった、と語る古川氏。社員との距離も縮まり、今年に入り新倉庫を設けるなど着実に業績を伸ばしています。「社長とは孤独か？」の問いに、「孤独では無い！」と断言する姿が印象的でした。

後半は、「創る会」でも取り入れている「企業変革プログラムstep1」の一部を体験。バズセッションではテーマを「社員の個性・能力生かしてますか？」とし、参加企業の現状や取り組みについて話し合いました。

例会後には、６名のオブザーバーのうち２名の方が入会を決めるという嬉しい報告もありました。

久保 修平氏（㈱和楽・三島支部）

沼津例会

実践！グループ長研修・例会

6月21日（水）　プラサヴェルデ　参加65名

岡本丸茂氏（ビューティ岡本）、日吉龍彦氏（宣伝工房舎）の２名の報告を元に、グループ長研修例会を実施しました。２回に分けてのミニ報告ではありましたが、現状の問題点を投げかけた熱い「我が経営」報告に、参加された方も共感できる例会となりました。また、今回はグループ長研修ということで、両氏からは問題提起を主とした報告をしてもらいましたが、もっと聞きたくなる報告でした。

今回は、グループ長の役割について座長の笹沼幸雄氏（㈲イーコン）から説明を聞いた後に、バズセッションの基本の流れを頭に置きながら実践形式で体験でき、改めてグループ長の難しさと重要性を感じる事ができました。同友会の良い所の一つに、例会があります。そして、例会で一番重要な事はグループ討論であり、活発な意見交換のできる場です。それをコーディネートするのが、グループ長の役割です。グ

ループ長のスキルアップこそ会社経営に役立つことを学べた例会でした。

高野 康一氏（㈱高野部品・沼津支部）

静岡例会

社長が変われば、会社が変わる

6月12日（月）　ペガサート　参加64名

今回は井上斉氏（ワシロック工業㈱）から、「自発性」をテーマにした報告でした。いかにコンクリートブロックのメーカー・施工会社としてよりプロフェッショナルになれるかを念頭に置いている井上氏も、事業承継当初は熱意のあまり会社の全てを一人で決め、行動していました。その裏には、周囲も自らの情熱を汲んでくれているという思いがあったのですが、突然、次代の幹部と見ていた人物が会社を離れてしまいます。その原因がその人物と周囲との不和であったことが判明、井上氏は自らの思いと社員の思いにズレがあったことに気付きました。

そこから社員の「どうしたいか？」を対話により引き出し、自らが決めなければ事が進まない自発性、自らが決めたからこそのやりがい、熱意が一人ひとりに芽生えることに注力し、社員が会社を愛せるかに重きを置いた采配へと切り替えました。

自らが提案した施策が会社を動かす事実に、社員にも確かな充実感と愛社精神が宿り、それが仕事を更に精錬していく。その姿に当日のバズセッションも、「社員とのコミュニケーション、また社員にいかにやりがいを持ってもらうか」で盛り上がり、充実した、大変良く語り合えた例会でした。

渡邉 且真氏（㈱協和・静岡支部）

志太例会

SWOTって何？～SWOT分析のイロハが分かる

6月22日（木）　藤枝市文化センター　参加23名

「自社の強みと弱み・市場・顧客の変化」を分析する手法のSWOT分析について学び・体験する例会でした。例会は２部構成。前半は簡単なSWOT分析の解説の後、寺田卓正氏（㈱ニューウェーブ）がSWOT分析を使って経営者が経営方針を決定するプロセスを発表。売り上げの一局集中に危機感を抱き、次の一手を打ち続けてきた寺田氏の判断プロセスを共有した貴重な時間でした。後半は、日本ハムの経営を題材に、SWOT分析からクロスSWOT分析への流れをグループに分かれて討議しました。食肉加工の業界が抱えている外的な要因と、日本ハムが持つ課題と資源をどのようにクロスして経営判断するかを疑似体験。この討議によって、クロスSWOT分析の手法を学び、経営者としての判断プロセスを科学的に導き出す方法を体験しました。

クロスSWOT分析は、自社の強みと弱みを外的な環境とぶつけることで、自社の方向性を導き出す手法ですが、今回の例会では全く新しい発見が多くの参加者にありました。それは、経営者の頭の中はいつもクロスSWOT分析をしていて、経営者がそのプロセスを丁寧かつ十分に従業員に対して説明せずに方向性を決めてしまうと、経営者と従業員の溝は広がるばかりだということです。手法以上に、溝を埋めるプロセスこそが大切だと思わされた例会でした。

村松 繁氏（保険アイマーク㈱・志太支部）

榛原例会

パネルディスカッション 榛南どうなん？

～どうなる？どうする？榛南地域の未来と中小企業の役割～

6月14日（水）　さざんか　参加60名

産業・経済・社会の各構造が大きく変わりつつある榛南地域。その課題について、大石裕之氏（県議会議員）、辻良典氏（牧之原市）、三浦忠司氏（島田信用金庫）、今野英明氏（光誠工業㈱）の４名のパネリストが、課題克服に必要なことについて討論しました。社会構造の面では、特に人口の減少が著しい牧之原市と比べ、周辺市町における補助金等の行政側サポートが厚いこと、このようなサポートの拡充の必要性など、現在や今後の課題について熱い話し合いがなされました。産業の面では、大きなイベントは地域活性の起爆剤にはなるが大手参入の可能性も高まる、という話も挙がりました。これは地元中小企業にとって、自分たちの未来を左右する話題でもあり、皆が大いに注目しました。最後に経済構造についてですが、最近話題になった島田市の槍の話を踏まえて、地域の名士や名利を利用した町おこしの提案がありました。それぞれ短時間で、もっと深堀の議論ができれば、と思いましたが、今後の榛南地域の未来を思い描くきっかけ作りになったのではないでしょうか。

杉本 幸光氏（㈲杉本損害保険事務所・榛原支部）

会員さんお邪魔します♪ 会員訪問記

お客様満足へのアプローチで、ナイス対処！

㈲静西開発　神場ゴルフセンター
勝亦 政和氏（御殿場支部）

事業内容：ゴルフの練習場　企画の運営、用品販売、修理、サポート業務
設　　立：平成５年11月23日
社 員 数：10名（社員3名、パートアルバイト7名）
入会年月：2016年４月17日
所 在 地：静岡県御殿場市神場521-1
Ｔ Ｅ Ｌ：0550-88-2341
Ｕ Ｒ Ｌ：http://www.jinbagolf.com/

多様なニーズからの成長

㈲静西開発　神場ゴルフセンターは、有名コースがひしめく御殿場の地で、平成５年にゴルフ練習場として設立しました。当初は、練習場と用品販売のみを行っていましたが、お客様から「コンペを開催したい」と要望があり、コンペなどの企画運営を始めました。次に「用品の劣化によるメンテナンスはどうしたらよいか？」「クラブの修理やカスタムはできるのか？」など相談を受け、用品のサポート・修理やカスタムを行うようになり、要望に合わせて事業内容も拡張するようになりました。

顧客満足の追及から得たもの

勝亦政和氏に具体的な取組を聞いたところ、地域柄、競合も多いこととゴルフ人口の減少が叫ばれている中で、お客様には出来るだけ喜んでいただくために、設備のメンテナンスには気を使っているそうです。お客様にはきれいなマットできれいなボールを使用し気持ちよく打ち込んで頂いています。「設備が良い」「接客が良い」「ありがとう！」などの声を掛けて頂くことで、従業員も気持ちよい対応ができ、職場環境の好転にもつながっているようです。今後はさらに接客強化やイベント開催などを活用し、地域の小中学生や企業の若手社員などの利用を増やしたいとのことでした。

勝亦 政和氏（左から３番目）

事業継承に向けて

勝亦氏は、支配人であるお母様が引退を考えていることもあり、会社の経営について学ぶ意識が強くなっているそうです。同友会でも常に勉強をされている先輩方や同期の仲間から刺激を受けながら、勉強会にも積極参加する中で自分自身の意識改革に取り組んでいます。「入会当初は、仲間を増やし、色々学びたいという簡単な気持ちだったが、10年間の在籍の中で現在は部会長の大役を任され、今までで一番充実した日々を送っている」と話してくれました。

取材・記事：片野 貴一郎氏（㈱モスク・クリエイション・御殿場支部）
取材：前原 毅氏（ダイヤ水処理㈱・御殿場支部）
立道 浩幸氏（㈱蒼設計・御殿場支部）
杉山 道弘氏（㈲杉山養鶏場・御殿場支部）
岡村 武典氏（（同）岡村商店・御殿場支部）
山田 健氏（山田庭園・御殿場支部）

時代に合った豆菓子を昔ながらの製法で

㈲豆豊商店
代表取締役会長　秋山　実氏（静岡支部）

事業内容：ピーナッツ等各種豆菓子類販売
創　　立：1932年
社 員 数：社員15名、パート30名
入会年月：1974年7月
所 在 地：静岡市葵区若松町55
Ｔ Ｅ Ｌ：054-271-2269
Ｕ Ｒ Ｌ：http://www.mametoyo.com/

昭和初期から続く老舗豆菓子店

静岡市葵区にある㈲豆豊商店は、落花生やカシューナッツ、アーモンド等を加工した豆菓子を製造し、市内３店舗の直営店での販売と、スーパー等への卸を行っています。昔ながらの職人の手による火炒りと加工で製造された豆菓子は、やはり味が全然違います。

創業は昭和７年。同友会会員である会長の秋山実氏の父が開業しました。実氏は大坂に修業に出ていましたが、20歳の時父の急逝のため、静岡に戻りお店を継ぐこととなりました。若き日の秋山氏は、休みのたびに東京まで視察に行き、小売店の研究をし、当時普通の和菓子屋であった豆豊商店を豆に特化した店舗に変えていきました。

社長の発想を会長の経験で商品化、ヒット商品に

実氏の御子息で現在社長を務める秋山貴浩氏は、コンピューター関係の営業を経て、豆豊商店に入社しました。前職での経験を活かして、パッケージのデザイン等も自ら手掛けられます。氏の発想力が素晴らしく、現在の主力製品であるメイプルカシューナッツも貴浩氏の発案です。商品開発は、貴浩氏が発案し、会長の実氏が製品化するという流れになっているといいます。

秋山 実氏

後継者・貴浩氏が力強くバトンを引き継ぐ

会長の実氏は静岡同友会の創立メンバーでもあります。近くの会員同士集まって勉強をした当時の話も少し伺うことができました。最後に社長に今後の展望を伺いました。現在は全体の２割程度の直営店での売り上げを伸ばしていきたいといいます。豆豊と静岡同友会を発展させてきた会長の実氏は、今も毎日会社にきて豆を炒り、正月には自ら店頭に立ち豆菓子を売ります。今後は社長である貴浩氏が持前の営業力、発想力で引き継ぎます。

取材・記事：藤本 浩氏（プリントバリュー㈱・静岡支部）
取材：森下 昌治氏（㈱森下商店・静岡支部）

同友しずおか
静岡県中小企業家同友会
コミュニケーションマガジン
2017年7月10日号　通巻464号　定価200円

新会員のご紹介（敬称略）会員数1075名

氏名	社名・事業	所属支部	紹介者
原田雅也（はらだ まさや）	㈲メディケア 保険・薬局（保険調剤、一般医薬品、健康食品販売、レセプトコンピューター取次）	三島	柳楽洋一郎
増田隼人（ますだ はやと）	コミュニティキュレーション 情報通信業（プロモーションコンサルティング（チラシ、会社案内やホームページ制作）、事業計画コンサルティング（事業計画の立案、計画表作成））	三島	山下直毅
杉山雄右（すぎやま ゆうすけ）	㈲セレクトスギヤマ 自動車修理（車検、整備、鈑金、塗装、保険）	富士宮	阿久澤太郎
津富宏（つとみ ひろし）	NPO法人 青少年就労支援ネットワーク静岡 就労支援（若者・生活困窮者などの就労支援を行う）	静岡	事務局
藤田優介（ふじた ゆうすけ）	㈱フジタ塗装 塗装業（住宅、アパート、工事、防水工事、板金工事	志太	事務局

■名義変更による新名義人（敬称略）

氏名	社名	所属支部	旧名義人
出口裕斗（でぐち ひろと）	㈱デグチホームズ	富士	出口昭利

※新会員の写真はe.doyu「ユーザ名簿」にアップします。e.doyuからのご確認をお願い致します。

連載 Seinenbu Tsushin
青年部通信
第4回

初めて青年部活動を意識し始めたのは今から6・7年前。私を含む支部の若手の中から「例会や部会活動で学ぶことより、もっと基本的な経営のイロハを学びたい」という声が自然発生的に生まれたのがきっかけでした。こうして、恥ずかしくて聞きづらいことを若手同士で学び合うために、支部内に「青年サークル」が立ち上がりました。

そんな折、県総会の懇親会で他支部の皆様と話している中で、他の支部でも同じように考えている皆様がいる事を知ります。基本的な経営のイロハに留まらず、互いに励まし合い、モチベーションを高め合う会。ロジックとロマンチックを両立し、経営者としての人間力を高め合う力が、青年部にはあることを知ります。

県組織として青年部が正式に承認されてからは副部会長を仰せつかり、他県の青年部の皆様との関わりも持ちました。地域を越え、業種を超え、青年部という仲間意識で親身になって自分の経営に対する姿勢に喝を入れてくれる仲間に出会い、自分が変わるきっかけを与えて頂きました。

まだまだ経営者としては未熟な自分ですが、全国の青年部の仲間に刺激され、自社経営を見直し、新たな学びに対するモチベーションを与えて貰えた事に感謝しています。

大川 隆久氏（フエタ工業㈲・御殿場支部）

★友達の輪 第40回 原田 祥太郎氏（スピードワーク・三島支部）は、8月10日号の登場です。ご期待ください！

共同求人委員会 インターンシップ事業
経営者の生の想いを学生に伝える“経営者＆学生 交流会”を実施
6月23日（金） CSA会議室

共同求人委員会ではインターンシップにおける新たな試みとして「経営者＆学生 交流会」を開催しました。企業からは会員、社員含め12名が参加、専門学校・大学からは18名の学生が参加しました。参加企業の皆さんからは、学生の就労観に対する漠然とした悩みや就職活動の不安など、様々な質問に答えて頂きました。また、中小企業の魅力や大企業との相違点、社員に対する経営者の向き合い方や、どのような会社を作っていきたいか、会社経営や企業づくりに対する想いなども、学生に向けて発信。中小企業経営者の姿を示し、学生が「働く」ということについて考えるきっかけとなる交流会になりました。

共同求人委員会ではこれからも、インターンシップや高校生向け企業・業界説明会等、学生・生徒と企業との接点に繋がる企画を実施していきます。皆様のご参加・ご協力、これからもよろしくお願い致します。

金指 忠男氏（㈱オートベル・県共同求人委員長）

静岡同友会 Facebookページ

静岡同友会 Facebook ページで、会員企業訪問の様子や各支部例会の案内を掲載しています。ぜひご覧ください！

同友会 三つの目的

1. 同友会は、ひろく会員の経験と知識を交流して企業の自主的近代化と強じんな経営体質をつくることをめざします。
2. 同友会は、中小企業が自主的な努力によって、相互に資質を高め、知識を吸収し、これからの経営者に要求される総合的な能力を身につけることをめざします。
3. 同友会は、他の中小企業団体とも提携して、中小企業をとりまく、社会・経済・政治的な環境を改善し、中小企業の経営を守り安定させ、日本経済の自主的・平和的な繁栄をめざします。